

# 青森県経済統計報告

平成 29 年 4 月 28 日

企画政策部統計分析課

## 1 青森県の推計人口(平成 29 年 4 月 1 日現在)..... 1

県人口	1,282,545 人 (対前月 6,246 人減少)
自然動態	900 人減少 (出生者数 665 人、死亡者数 1,565 人)
社会動態	5,346 人減少 (転入者数 3,993 人、転出者数 9,339 人)

## 2 本県の経済動向 (平成 29 年 2 月・3 月の経済指標を中心として)

### (1) 経済概況

本県経済は、緩やかに持ち直している。  
景況感(青森県景気ウォッチャー調査結果)をみると、現状判断DIは前期比3.7ポイント増加の51.0となり、先行き判断DIは現状判断DIより高い52.8となった。

### (2) 主要経済指標の動向

- (2-1) 生産動向  
・平成 29 年 2 月の**青森県鉱工業生産指数**(平成 22 年=100)は、季節調整済指数が 106.3 で、前月比 6.0%の低下となり、2 カ月ぶりに前月を下回った。また、原指数は 100.3 で、前年同月比 2.2%の低下となり、9 カ月ぶりに前年同月を下回った。 ... 2
- (2-2) 雇用労働  
・平成 29 年 2 月の**定期給与**は 219,382 円で前年同月比 0.9%増となった。**総実労働時間**は 151.7 時間で前年同月比 0.4%増、**所定外労働時間**は 11.7 時間で前年同月比 9.6%増となった。  
・平成 29 年 2 月の**有効求人倍率**(季節調整値)は 1.20 倍で、前月を 0.03 ポイント下回った。  
・**雇用保険受給者実人員**は 6,856 人で、前年同月比 17.5%減となった。 ... 3
- (2-3) 物 価  
平成 29 年 3 月の**青森市消費者物価指数**(平成 27 年=100)は、総合指数が 100.3 となり、前月比 0.1%の上昇、前年同月比 1.0%の上昇となった。また、生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は 100.9 となり、前月比 0.2%の上昇、前年同月比 0.2%の上昇となった。 ... 5
- (2-4) 個人消費  
・平成 29 年 2 月の**百貨店・スーパー販売額**は、全店舗ベースが 124 億円で前年同月比 2.9%減となり、3 カ月連続で前年同月を下回った。また、既存店ベースでは前年同月比 2.9%減となり、3 カ月連続で前年同月を下回った。  
・平成 29 年 3 月の軽自動車を含めた**乗用車新車登録・届出台数**は 6,332 台で、前年同月比 4.6%増となり、6 カ月連続で前年同月を上回った。  
・平成 29 年 3 月の**観光入込客数**は、主な観光施設が 554 千人で前年同月比 2.5%減となり、2 カ月連続で前年同月を下回った。また、主な宿泊施設は 111 千人で前年同月比 6.6%増となり、5 カ月ぶりに前年同月を上回った。 ... 6
- (2-5) 建 設  
・平成 29 年 2 月の**新設住宅着工戸数**は 225 戸で、前年同月比 43.3%減となり、2 カ月ぶりに前年同月を下回った。  
・平成 29 年 3 月の**公共工事請負額**は 117 億 3,200 万円で前年同月比 69.9%増となり、3 カ月連続で前年同月を上回った。 ... 7
- (2-6) 企業倒産  
平成 29 年 3 月の**企業倒産**は、件数は 5 件で前年同月比 25.0%増となった。負債総額は 2 億 6,400 万円で前年同月比 80.7%減となった。 ... 8

### (3) 景気動向指数CI (平成 29 年 2 月分) ..... 9

先行指数	130.3 (前月を 7.4ポイント下回り、5 カ月ぶりに下降した)
一致指数	155.9 (前月を 11.5ポイント下回り、2 カ月連続で下降した)
遅行指数	127.3 (前月を 5.5ポイント上回り、2 カ月連続で上昇した)

### (4) 青森県景気ウォッチャー調査 (平成 29 年 4 月期) ..... 10

3 カ月前と比べた景気の現状判断DI	...51.0(前期比 3.7ポイント増、7 期ぶりで 50 を上回る)
3 カ月後の景気の先行き判断DI	.....52.8(前期比 4.0ポイント増、4 期ぶりで 50 を上回る)

# 1 青森県の推計人口（平成29年4月1日現在）

## 【概況】

平成29年4月1日現在の本県推計人口は、1,282,545人で、前月に比べ6,246人の減少となった。

### ○自然動態

出生者数が665人、死亡者数が1,565人で、900人の減少となった。

### ○社会動態

転入者数が3,993人、転出者数が9,339人で、5,346人の減少となった。

### 総人口の推移

(単位：人)

	総数	性別		対前月増減率	増減数	自然増減数	自然増減数		社会増減数	県外からの転入者数	県外への転出者数
		男	女				出生者数	死亡者数			
昭 45. 10. 1	1,427,520	685,477	742,043	-	10,929	-	-	-	-	-	-
50. 10. 1	1,468,646	707,232	761,414	-	41,126	-	-	-	-	-	-
55. 10. 1	1,523,907	735,444	788,463	-	55,261	-	-	-	-	-	-
60. 10. 1	1,524,448	731,439	793,009	-	541	-	-	-	-	-	-
平 2. 10. 1	1,482,873	704,758	778,115	-	-41,575	-	-	-	-	-	-
7. 10. 1	1,481,663	704,189	777,474	-	-1,210	-	-	-	-	-	-
12. 10. 1	1,475,728	702,573	773,155	-	-5,935	-	-	-	-	-	-
17. 10. 1	1,436,657	679,077	757,580	-	-39,071	-	-	-	-	-	-
22. 10. 1	1,373,339	646,141	727,198	-	-63,318	-	-	-	-	-	-
27. 10. 1	1,308,265	614,694	693,571	-	-65,074	-	-	-	-	-	-
28. 4. 1	1,297,378	609,235	688,143	-0.461%	-6,014	-740	743	1,483	-5,274	3,828	9,102
28. 5. 1	1,297,165	609,299	687,866	-0.016%	-213	-715	711	1,426	502	3,450	2,948
28. 6. 1	1,296,266	608,773	687,493	-0.069%	-899	-731	707	1,438	-168	1,254	1,422
28. 7. 1	1,295,463	608,413	687,050	-0.062%	-803	-641	689	1,330	-162	1,126	1,288
28. 8. 1	1,294,831	608,132	686,699	-0.049%	-632	-532	716	1,248	-100	1,637	1,737
28. 9. 1	1,294,209	607,941	686,268	-0.048%	-622	-641	803	1,444	19	1,752	1,733
28. 10. 1	1,293,681	607,729	685,952	-0.041%	-528	-594	742	1,336	66	1,478	1,412
28. 11. 1	1,293,130	607,473	685,657	-0.043%	-551	-677	758	1,435	126	1,353	1,227
28. 12. 1	1,292,212	607,074	685,138	-0.071%	-918	-802	711	1,513	-116	1,002	1,118
29. 1. 1	1,291,206	606,639	684,567	-0.078%	-1,006	-819	666	1,485	-187	920	1,107
29. 2. 1	1,290,008	606,029	683,979	-0.093%	-1,198	-1,115	704	1,819	-83	978	1,061
29. 3. 1	1,288,791	605,418	683,373	-0.094%	-1,217	-857	621	1,478	-360	999	1,359
29. 4. 1	1,282,545	602,241	680,304	-0.485%	-6,246	-900	665	1,565	-5,346	3,993	9,339

### 3月中の人口動態の推移

(単位：人)

年月		平19.3	20.3	21.3	22.3	23.3	24.3	25.3	26.3	27.3	28.3	29.3
自然動態	出生者数	831	844	814	847	797	742	704	745	737	743	665
	死亡者数	1,296	1,327	1,327	1,447	1,579	1,498	1,501	1,475	1,461	1,483	1,565
	自然増減数	-465	-483	-513	-600	-782	-756	-797	-730	-724	-740	-900
社会動態	県外からの転入者数	3,722	4,045	4,158	4,069	2,887	3,822	3,440	3,923	3,806	3,828	3,993
	県外への転出者数	9,987	9,894	9,211	8,558	5,920	8,691	9,110	9,050	9,159	9,102	9,339
	社会増減数	-6,265	-5,849	-5,053	-4,489	-3,033	-4,869	-5,670	-5,127	-5,353	-5,274	-5,346
増減数計		-6,730	-6,332	-5,566	-5,089	-3,815	-5,625	-6,467	-5,857	-6,077	-6,014	-6,246

※1 昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22、27年は国勢調査人口（確定値）。

※2 平成27年11月1日以降の人口は、平成27年国勢調査人口（確定値 総務省統計局 平成28年10月26日）を基礎に推計している。

※3 増減数は、昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22、27年が各々の前回国勢調査、その他が前月推計人口に対するものである。

※4 算出方法

県の推計人口＝前月の人口＋自然増減数（出生者数－死亡者数）＋社会増減数（県外からの転入者数－県外への転出者数）

## 2 本県の経済動向

### (2) 主要経済指標の動向

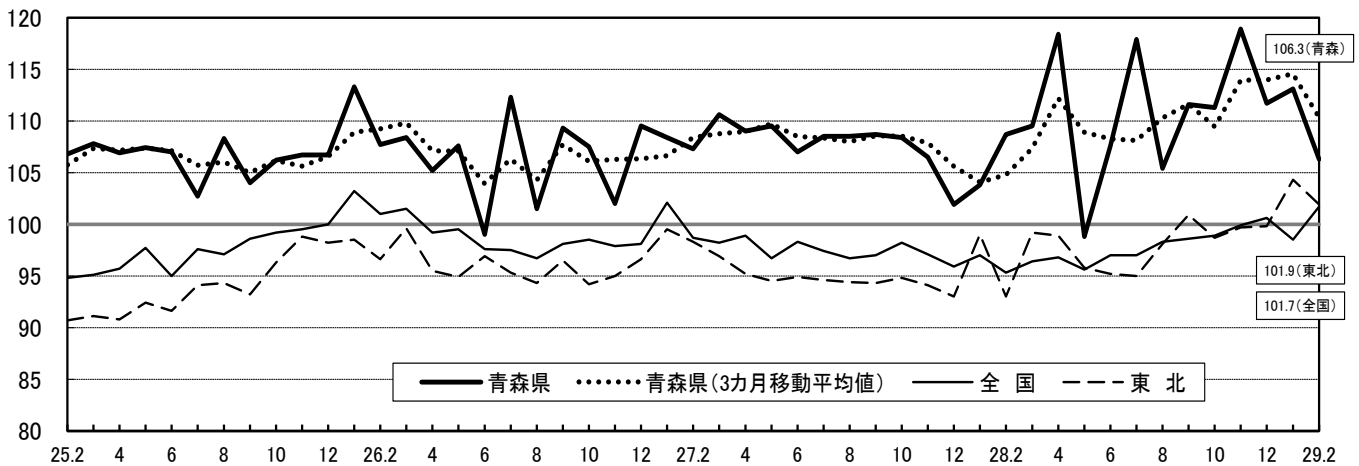
#### (2-1) 生産動向

平成29年2月の青森県鉱工業生産指数(平成22年=100)は、季節調整済指数が106.3で、前月比6.0%の低下となり、2カ月ぶりに前月を下回った。また、原指数は100.3で、前年同月比2.2%の低下となり、9カ月ぶりに前年同月を下回った。

季節調整済指数で前月からの動きをみると、金属製品工業、電気機械工業、情報通信機械工業などが上昇に寄与した一方、電子部品・デバイス工業、鉄鋼業、食料品工業などが低下し、鉱工業全体では6.0%の低下となった。

青森県・全国・東北の鉱工業生産指数推移(季節調整済指数)

(平成22年=100)

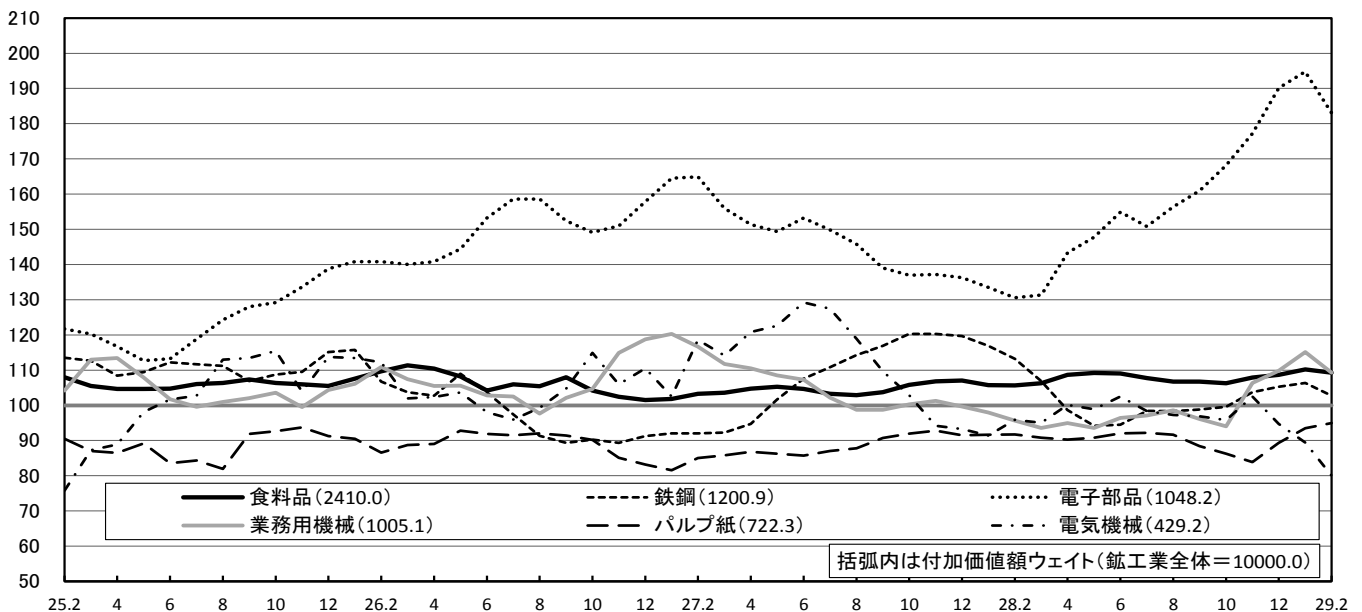


◎業種別動向(前月比) 鉱工業全体 -6.0%

プラス			マイナス		
業種	前月比(%)	寄与率(%)	業種	前月比(%)	寄与率(%)
金属製品工業	36.6	14.2	電子部品・デバイス工業	-18.7	-37.3
電気機械工業	6.9	2.3	鉄鋼業	-11.2	-14.6
情報通信機械工業	7.9	0.6	食料品工業	-4.7	-12.7
その他製品工業	7.7	0.3	化学工業	-30.7	-8.6
鉱業	2.5	0.2	輸送機械工業	-12.3	-8.4

主要業種の生産動向(季節調整済指数・3カ月移動平均値)

(平成22年=100)



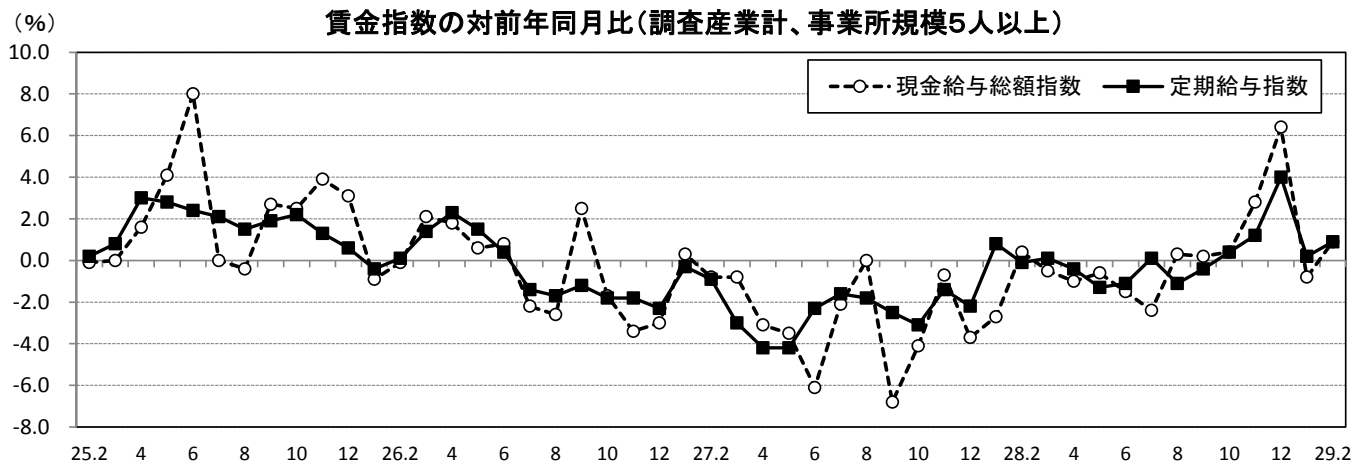
資料：県統計分析課「青森県鉱工業生産指数(速報)」

## (2-2) 雇用労働

### (2-2-1) 給与・労働時間（毎月勤労統計調査結果）

平成29年2月の定期給与は219,382円で定期給与指数（平成27年=100）では101.5となり、前年同月比0.9%増と5カ月連続の増（現金給与総額220,920円、現金給与総額指数88.0、前年同月比0.9%増）となった。また、実額で比較した定期給与の全国対比は84.7となった。

総実労働時間は151.7時間で、総実労働時間指数は98.1となり、前年同月比0.4%増と3カ月連続の増となった。このうち、所定外労働時間は11.7時間で、所定外労働時間指数は101.7となり、前年同月比9.6%増と3カ月連続の増となった。



資料：県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」

### 賃金及び労働時間の動き(調査産業計、事業所規模5人以上)

	実 数		指数(H27=100)		対前年同月増減率	
	青森県	全 国	青森県	全 国	青森県	全 国
現金給与総額	220,920 円	262,845 円	88.0	83.9	0.9 %	0.4 %
定期給与	219,382 円	258,975 円	101.5	99.9	0.9 %	0.1 %
特別給与	1,538 円	3,870 円	—	—	—	3.7 %
総実労働時間	151.7 時間	142.2 時間	98.1	98.4	0.4 %	-0.5 %
所定内労働時間	140.0 時間	131.3 時間	97.8	98.4	-0.4 %	-0.7 %
所定外労働時間	11.7 時間	10.9 時間	101.7	99.1	9.6 %	1.5 %

(注)1.定期給与とは「きまって支給する給与」のことである。

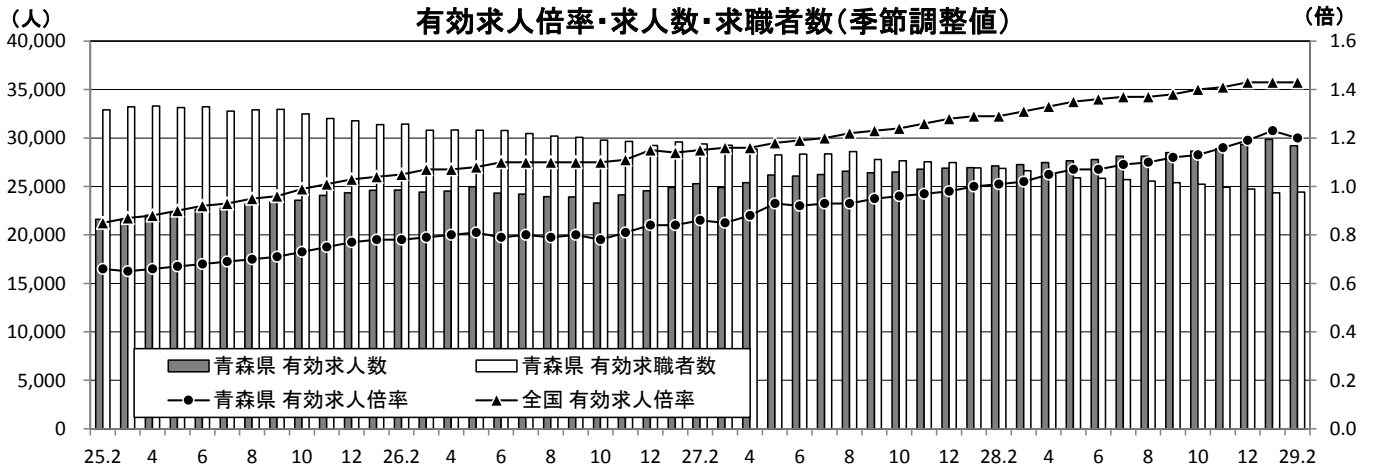
2.前年同月比は指数によって算出している。

3.平成29年1月分から、平成25年10月改訂の日本標準産業分類に基づいて結果の公表をしている。

資料：県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」

## (2-2-2) 有効求人倍率

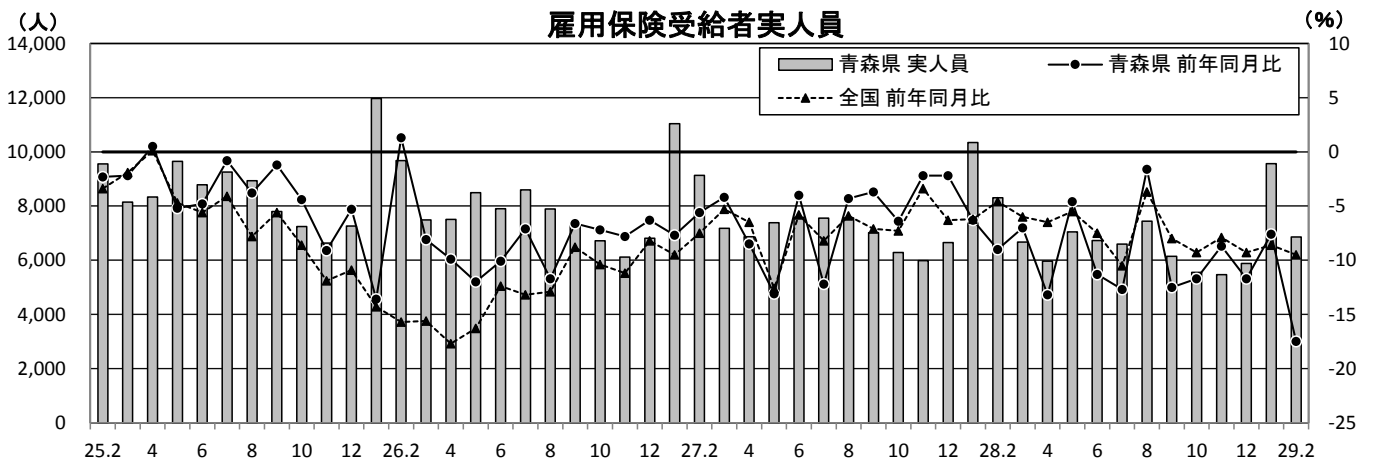
平成29年2月の有効求人倍率（季節調整値）は1.20倍で、前月を0.03ポイント下回り、前月に次いで過去2番目の水準となった。



資料：青森労働局職業安定部職業安定課「職業安定業務取扱月報」

## (2-2-3) 雇用保険受給者実人員

平成29年2月の雇用保険受給者実人員は6,856人で、前年同月比17.5%減となり、36カ月連続で前年同月を下回った。



資料：青森労働局職業安定部職業安定課「職業安定業務取扱月報」、厚生労働省「雇用保険事業月報」

## (2-3) 物価

平成29年3月の青森市消費者物価指数(平成27年=100)は、総合指数が100.3となり、前月と比べ0.1%の上昇、前年同月と比べ1.0%の上昇となった。

生鮮食品を除く総合指数は100.2となり、前月と比べ0.2%の上昇、前年同月と比べ1.2%の上昇となった。

生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は100.9となり、前月と比べ0.2%の上昇、前年同月と比べ0.2%の上昇となった。

総合指数が前月と比べ0.1%の上昇となった内訳を寄与度でみると、食料(油脂・調味料など)、光熱・水道(電気代など)などの上昇が要因となっている。

総合指数が前年同月と比べ1.0%の上昇となった内訳を寄与度でみると、光熱・水道(他の光熱など)、食料(生鮮魚介など)などの上昇が要因となっている。

図1 総合指数の動き

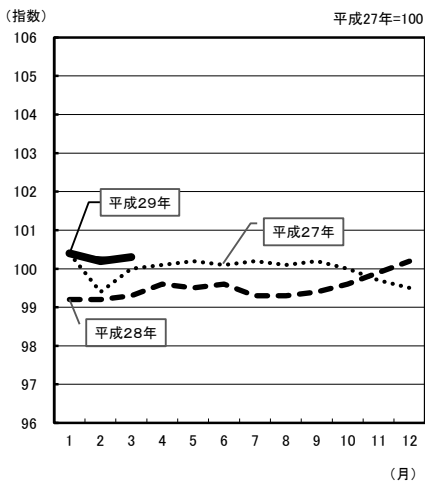


図2 生鮮食品を除く総合指数の動き

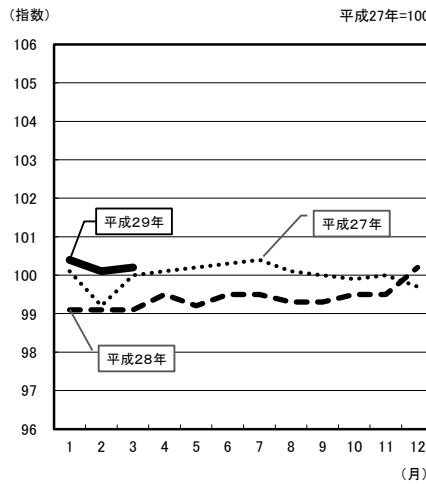
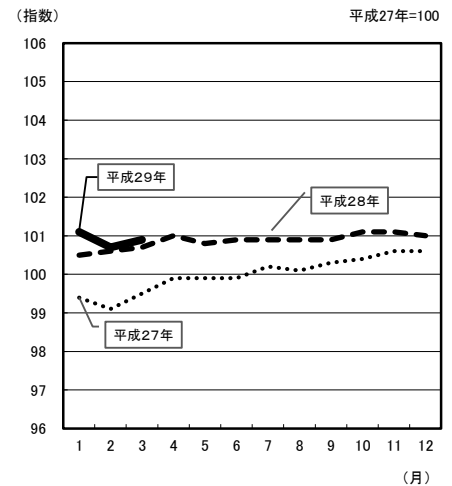


図3 生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数の動き



## 10大費目指数の動き

(平成27年=100)

	総合	生鮮食品を除く総合	生鮮食品及びエネルギーを除く総合	食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合	食料	生鮮食品	住居	光熱・水道	家・具・家事用品	被及履	服物	保医	健康	交通・通信	教育	教娯	養楽	諸雑費
当月指数	100.3	100.2	100.9	99.8	103.3	100.5	100.1	95.7	99.7	98.8	100.2	97.1	102.0	101.4	100.9			
前月比(%)	0.1	0.2	0.2	▲0.2	0.4	▲2.0	0.0	0.2	▲1.6	0.4	0.3	▲0.4	0.0	0.3	0.1			
寄与度	—	0.18	0.13	▲0.10	0.12	▲0.10	0.01	0.02	▲0.07	0.01	0.01	▲0.05	0.00	0.02	0.00			
前年同月比(%)	1.0	1.2	0.2	▲0.7	1.7	▲2.8	▲0.5	5.1	▲0.8	▲2.3	0.2	0.6	1.6	0.5	0.4			
寄与度	—	1.11	0.13	▲0.45	0.48	▲0.14	▲0.11	0.52	▲0.03	▲0.07	0.01	0.07	0.04	0.04	0.02			

資料: 県統計分析課「消費者物価指数 月報」

※ **寄与度**とは、ある費目の指数の変動が、総合指数の変化率のうち何ポイント寄与したかを示したものであり、全費目の寄与度を合計すると、原則として、総合指数の前月比及び前年同月比(%)の値に一致する。

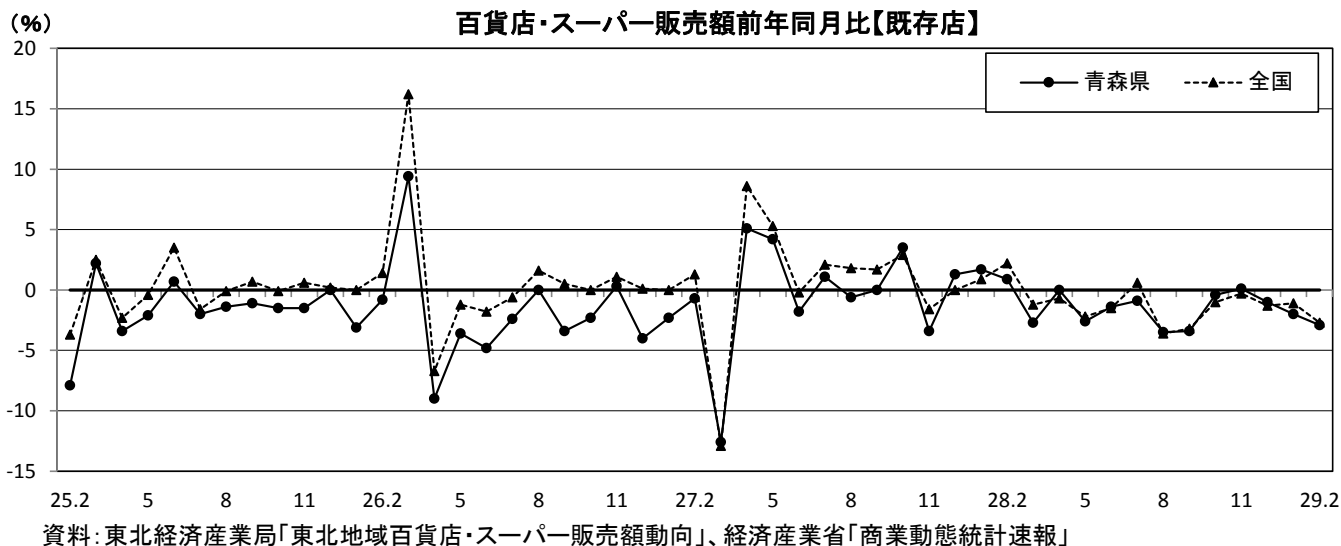
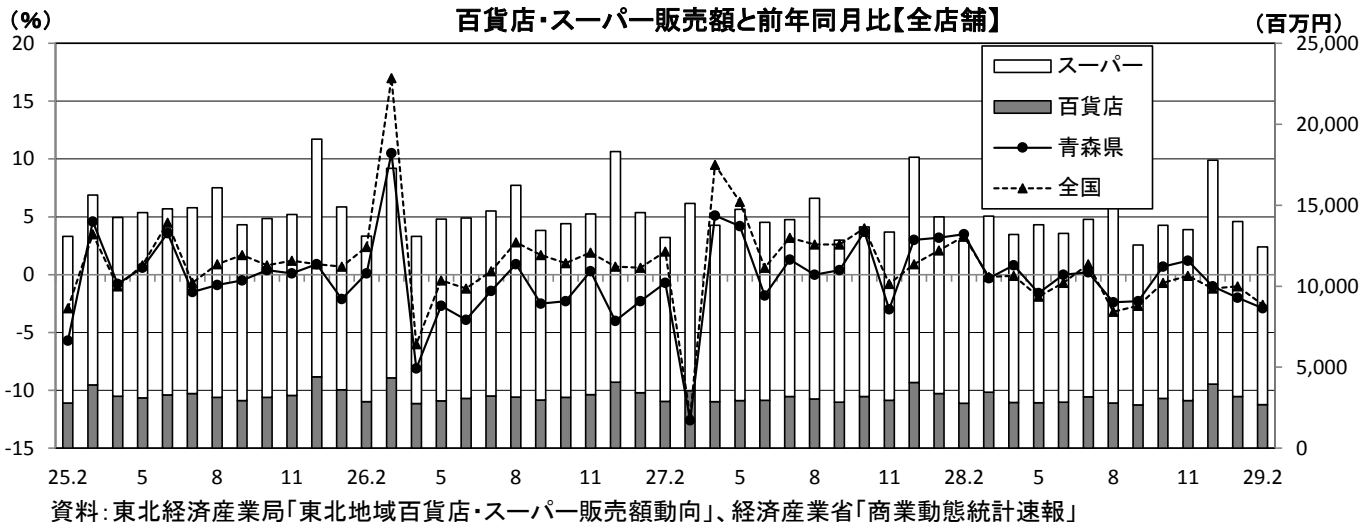
前月比、前年同月比及び寄与度は、端数処理前の指数値を用いて計算しているため、公表された指数値を用いて計算した値とは一致しない場合がある。

本資料は総務省統計局「小売物価統計調査」の調査票情報を独自集計したものである。

## (2-4) 個人消費

### (2-4-1) 百貨店・スーパー販売額

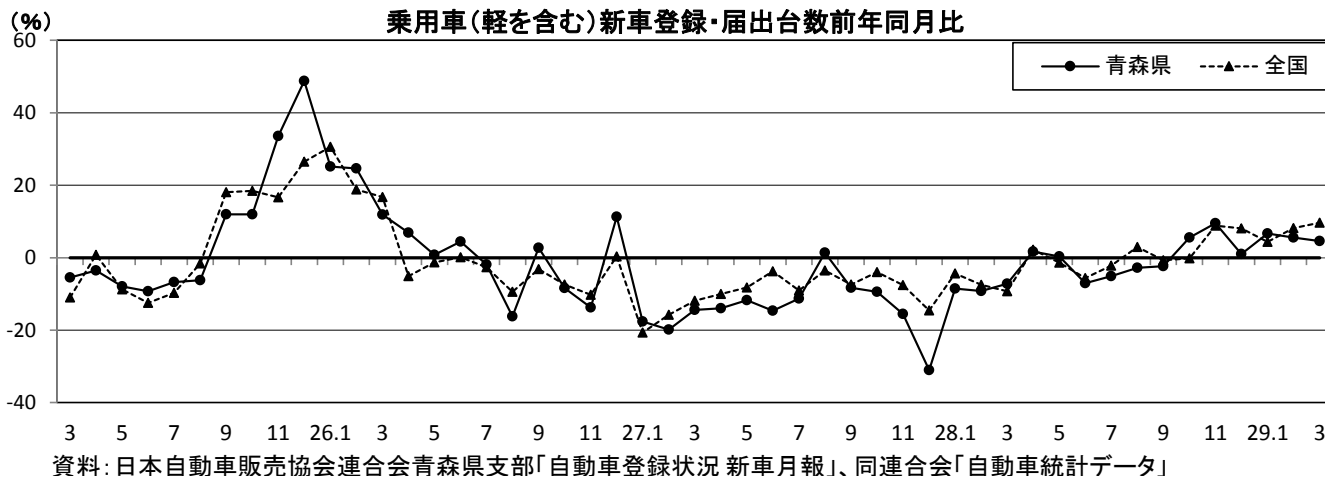
平成29年2月の百貨店・スーパー販売額は、全店舗ベースが124億円で前年同月比2.9%減となり、3カ月連続で前年同月を下回った。また、既存店ベースでは前年同月比2.9%減となり、3カ月連続で前年同月を下回った。



\* 大型小売店は従業員が50人以上で売場面積が1,500平方メートル以上の商店をいう。そのうち、既存店とは、当月及び前年同月とも調査の対象となっている商店をいう。

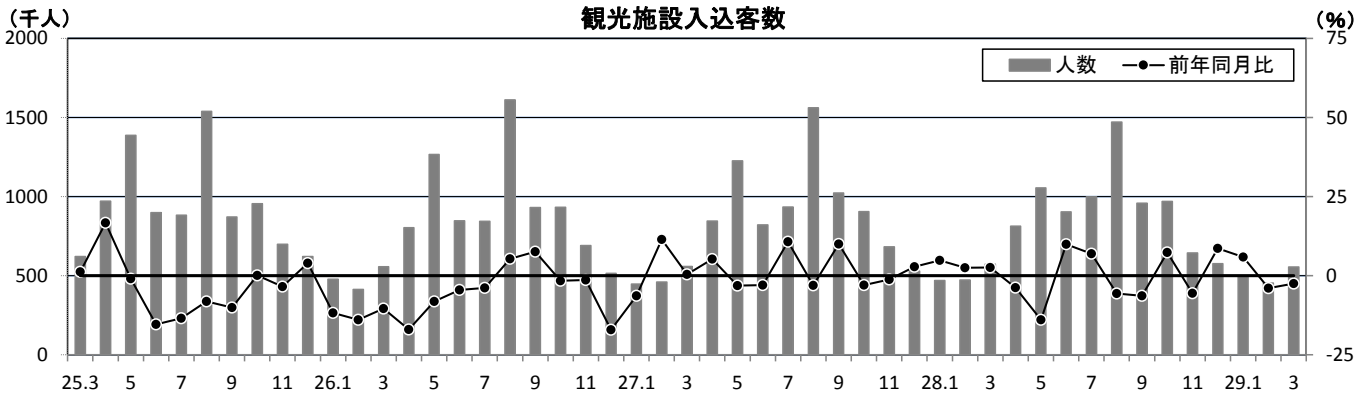
### (2-4-2) 乗用車新車登録・届出台数

平成29年3月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は6,332台で、前年同月比4.6%増となり、6カ月連続で前年同月を上回った。普通車、小型車が増加したことによる。

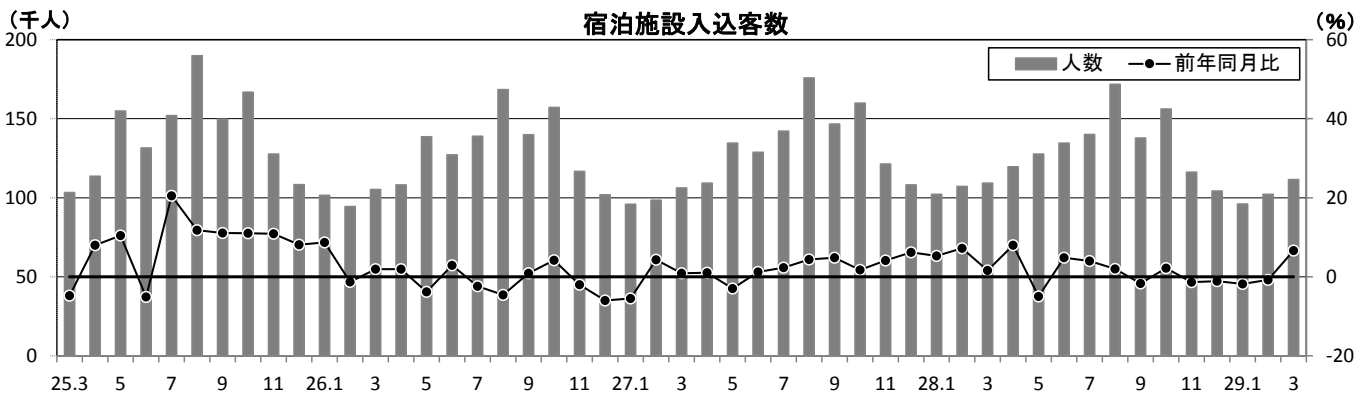


### (2-4-3) 観光入込客数

平成29年3月の観光入込客数は、主な観光施設が554千人で前年同月比2.5%減となり、2カ月連続で前年同月を下回った。また、主な宿泊施設は111千人で前年同月比6.6%増となり、5カ月ぶりに前年同月を上回った。観光施設は青森市、八戸市、五所川原市、十和田市等の施設で減少し、宿泊施設は八戸市、弘前市等の施設で増加したことによる。



資料：県観光企画課「月例観光統計」※観光施設34施設（H24年1月～H26年3月は35施設、H26年4月以降は34施設対比）

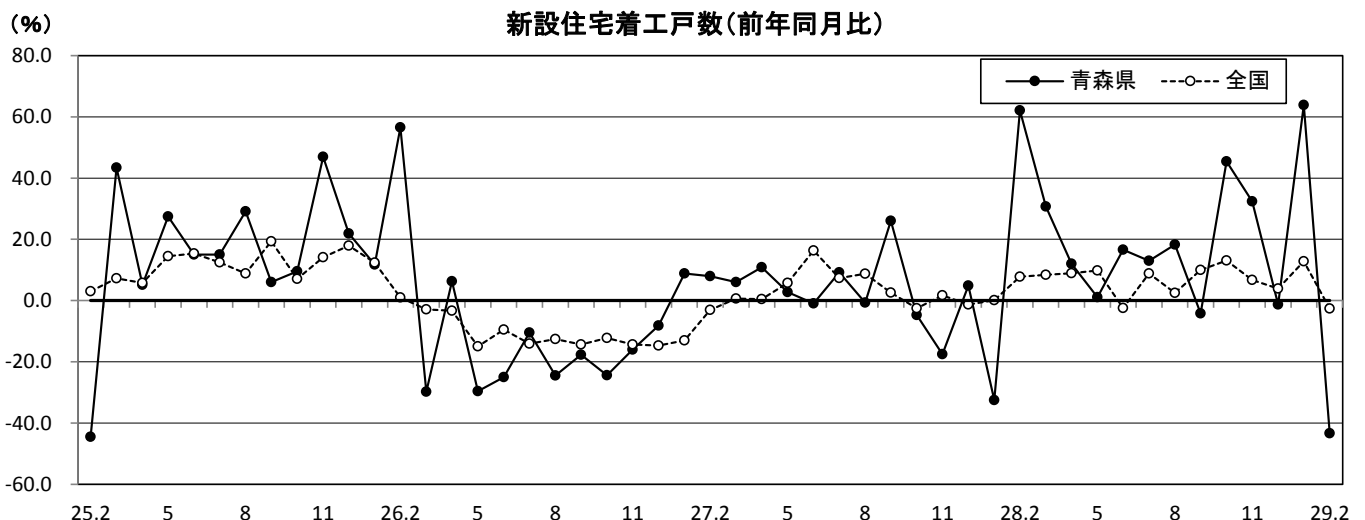


資料：県観光企画課「月例観光統計」※宿泊施設54施設（H24年1～3月は57施設、H24年4～9月は60施設、H24年10～11月は61施設、H24年12月～H26年3月は57施設、H26年4～12月は56施設、H27年1～12月は55施設、H28年1月以降は54施設、H28年7月以降は53施設対比）

### (2-5) 建設

#### (2-5-1) 住宅建設

平成29年2月の新設住宅着工戸数は225戸で前年同月比43.3%減となり、2カ月ぶりに前年同月を下回った。貸家、分譲住宅が減少したことによる。

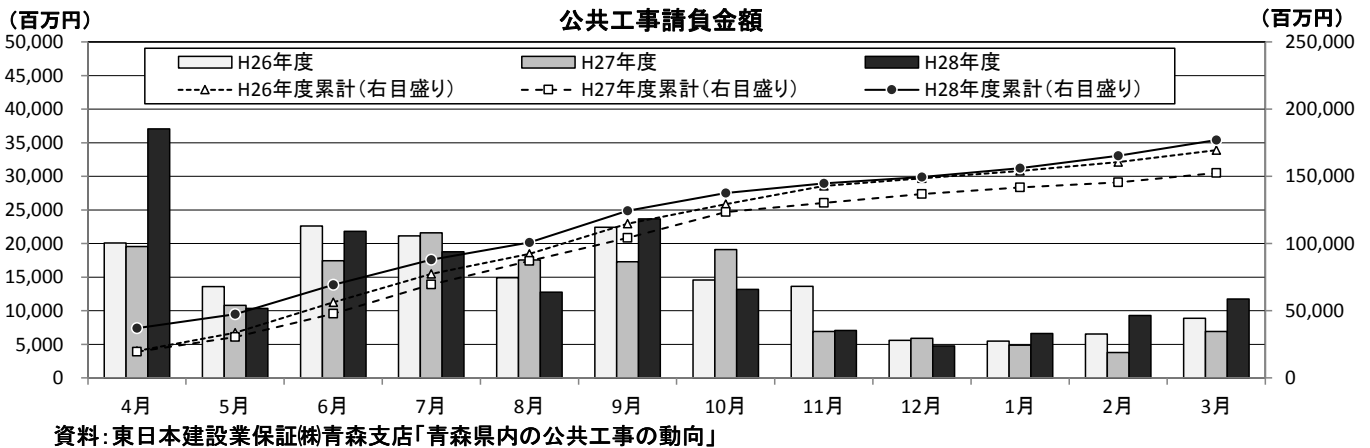


資料：県建築住宅課「建築着工統計」、国土交通省「建設統計月報」



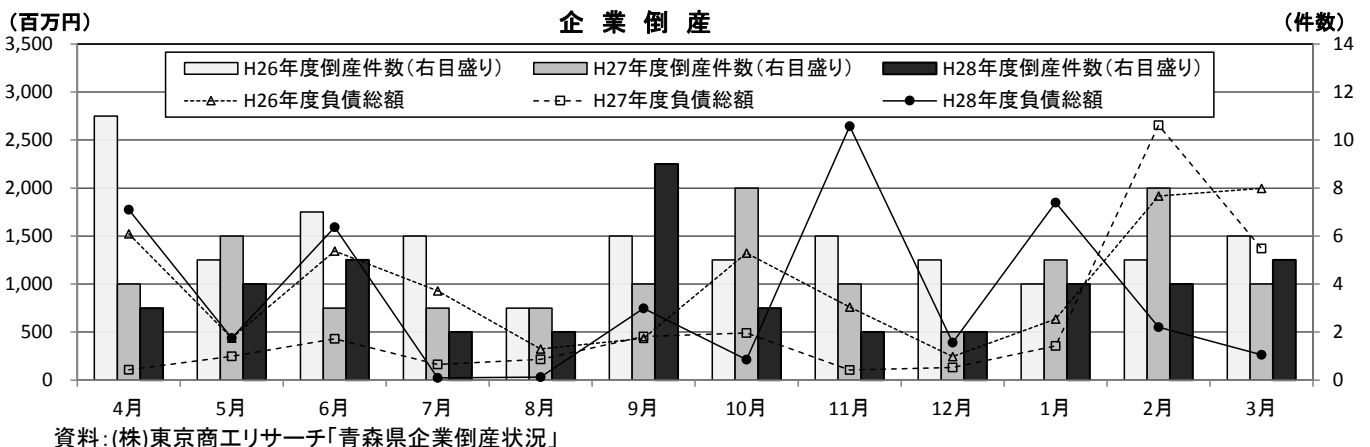
## (2-5-2) 公共事業

平成29年3月の公共工事請負金額は117億3,200万円で前年同月比69.9%増となり、国、市町村の増加により3カ月連続で前年同月を上回った。また、平成29年3月までの累計金額は1,770億8,300万円で前年同期比16.7%増となった。



## (2-6) 企業倒産

平成29年3月の企業倒産は、件数は5件で前年同月比25.0%増となった。負債総額は2億6,400万円で前年同月比80.7%減となった。負債総額の前年同月比は、10億円を超える大型倒産がなく、小規模倒産が大部分を占めたことから減少した。また、平成29年3月までの累計倒産件数は45件で前年同期比16.7%減、負債総額は105億900万円で前年同期比56.3%増となった。



### (3) 青森県景気動向指数

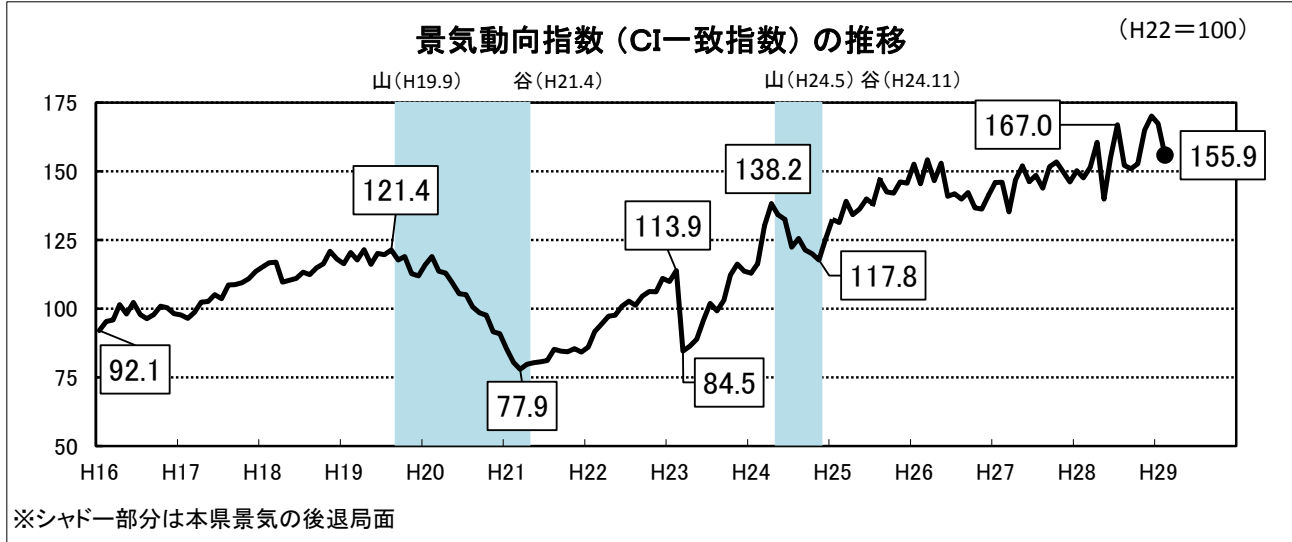
平成29年2月の青森県景気動向指数（C I）は、先行指数 130.3、一致指数 155.9、遅行指数 127.3 となった。

先行指数は、前月を 7.4 ポイント下回り、5 カ月ぶりに下降した。

一致指数は、前月を 11.5 ポイント下回り、2 カ月連続で下降した。

遅行指数は、前月を 5.5 ポイント上回り、2 カ月連続で上昇した。

2月の一致指数は生産・雇用関連の指標がマイナスになったことから下降した。



●個別系列の動き（各指標は季節調整等を行い、寄与度を前月と比較しています）

寄与度がプラスの指標			寄与度がマイナスの指標		
<b>先行系列</b>					
建築着工床面積	2.48	5カ月連続	新規求人倍率（全数）	-6.64	2カ月ぶり
企業倒産件数	1.36	2カ月ぶり	新設住宅着工床面積	-4.77	2カ月ぶり
日経商品指数（42種）	0.99	8カ月連続	生産財生産指数	-1.73	2カ月ぶり
中小企業景況D I	0.94	4カ月ぶり	乗用車新車登録届出数	-0.19	2カ月ぶり
<b>一致系列</b>					
旅行取扱高	0.75	2カ月ぶり	有効求人倍率（全数）	-6.92	4カ月ぶり
輸入通関実績（八戸港）	0.29	2カ月ぶり	鉱工業生産指数	-3.14	2カ月ぶり
			投資財生産指数	-1.04	2カ月ぶり
			所定外労働時間指数（全産業）	-0.89	2カ月連続
			百貨店・スーパー販売額（既存店）	-0.54	3カ月連続
<b>遅行系列</b>					
公共工事請負金額	3.95	2カ月連続	りんご消費地市場価格	-1.86	2カ月連続
常用雇用指数（全産業）	3.19	2カ月連続	青森市消費者物価指数（総合）	-0.65	7カ月ぶり
家計消費支出（勤労者世帯：実質）	0.46	2カ月連続			
県内金融機関貸出残高	0.12	8カ月ぶり			
有効求職者数（全数）	0.07	2カ月ぶり			

資料：県統計分析課「青森県景気動向指数月報」

(参考) 青森県景気動向指数（D I）		
先行指数	87.5%	（5カ月連続で50%を上回った）
一致指数	57.1%	（2カ月連続で50%を上回った）
遅行指数	71.4%	（4カ月連続で50%を上回った）

#### (4) 青森県景気ウォッチャー調査（平成29年4月期）

現状判断DIは、住宅・自動車などの販売好調や農家所得の向上などから、前期比3.7ポイント増加の51.0となった。

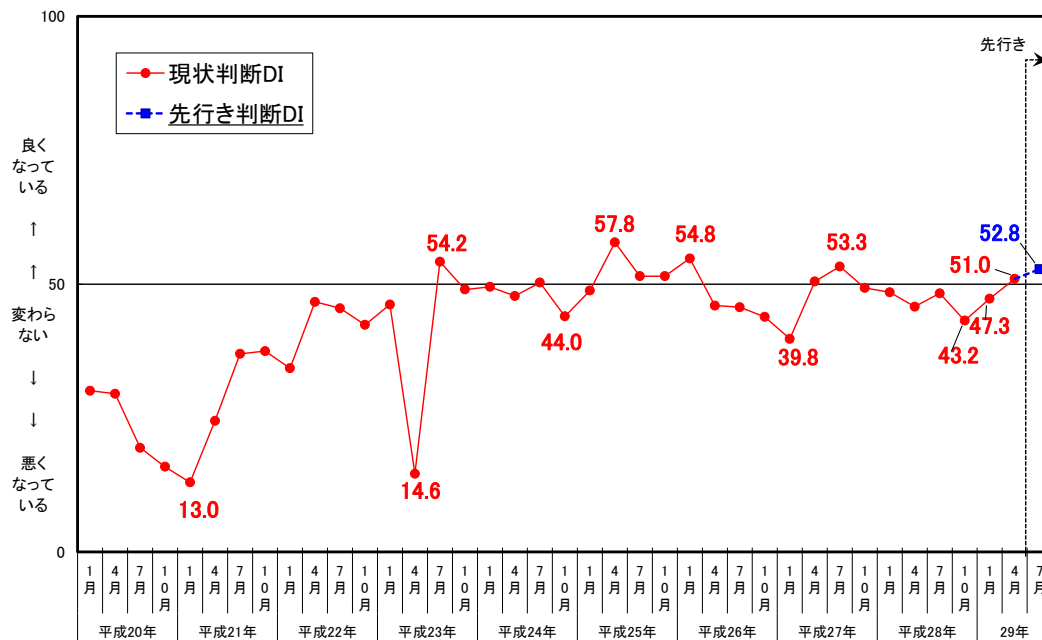
先行き判断DIは、さくらまつり等の観光イベントやインバウンドなどへの期待感があることから、現状判断DIと比べて1.8ポイント増加の52.8となった。

3カ月前と比べた景気現状判断DIは、景気の横ばいを示す50を7期ぶりで上回った。

3カ月後の景気先行き判断DIは、景気の横ばいを示す50を4期ぶりで上回った。

（調査期間 平成29年4月3日～4月17日 回答率100%）

景気現状判断DIの推移・今後の先行き判断DI



#### ● 3カ月前と比べた景気現状判断

動 向	<p>前期調査と比べると、「良くなっている」が増減なし、「やや良くなっている」が9.2ポイント増加、「変わらない」が6.4ポイント減少、「やや悪くなっている」が0.2ポイント増加、「悪くなっている」が3.0ポイント減少したことにより、全体では3.7ポイント増加の51.0となり、景気の横ばいを示す50を7期ぶりで上回った。</p> <p>判断理由では住宅・自動車などの販売好調や農家所得の向上などプラス面をあげる声があった一方で、アウガ商業施設の閉店、物価上昇、海外の情勢及び津軽地区の大雪などといったマイナス面をあげる声があった。</p> <p>地区別では、前期調査と比べて、県南地区を除く3地区でポイントが増加した。県南地区を除く3地区では景気の横ばいを示す50を上回り、県南地区では50を下回った。</p>
--------	--

#### ● 3カ月後の景気先行き判断

動 向	<p>前期調査と比べると、「良くなる」が3.1ポイント増加、「やや良くなる」が7.3ポイント増加、「変わらない」が6.5ポイント減少、「やや悪くなる」が4.8ポイント減少、「悪くなる」が1.0ポイント増加したことにより、全体では4.0ポイント増加の52.8となり、景気の横ばいを示す50を4期ぶりで上回った。</p> <p>判断理由では、さくらまつり等の観光イベントやインバウンドなどに期待するという声があった一方で、物価上昇や海外の情勢及び人手不足の深刻化による影響などを懸念する声があった。</p> <p>地区別では、前期調査と比べて、津軽地区と下北地区でポイントが増加すると共に、景気の横ばいを示す50を上回った。</p>
--------	--

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」

### ○3ヶ月前と比べて景気の現状判断理由

○	春になり、新築を考え始めるお客様が増加。イベント会場・相談・問合せ全て増加。(住宅建設販売=東青)
○	農家所得の向上。春・衣替えがあり好調(衣料専門店=津軽)
○	お客様との会話の中で、忙しいとか人手が足りないという話題が多く聞かれ、以前より少し良くなってきているのかなと思う。(乗用車販売=県南)
○	春の観光本番に向けて期待感が高まっている。弘前さくらまつり100年も好材料。(新聞社求人広告=津軽)
□	各業種別売上で上向き傾向がみられない。特に衣料品に関しては継続的に厳しい。(百貨店=東青)
□	29年1~3月の入場者数は14.0%増であるが、青森~天津チャーター便就航に伴う中国人客の増加が大きく寄与しており、これを除いた入場者数は前年同期比マイナスとなるもの。(観光名所等=東青)
□	・人の出入りは変わらない。 ・前年と売上げも同じくらい。(旅行代理店=津軽)
□	売上、棟数とも前年と同じ位。利益率だけが若干下がっている。(住宅建設販売=津軽)
□	国内市場は安定している。一方で海外情勢の問題で不安要素はあるが、現状は変わらない見込み(観光型ホテル・旅館=県南)
□	外食するお客様が減っている。周りのお客様や有人は、仕事帰りや休日はスポーツジムやヨガなどに通っている。仕事帰りに飲む傾向が弱くなっているようです。(レストラン=県南)
□	先日、とある会合でむつ市内の景気の話をしたが、各職種厳しい状況が続いているという話が大半であった。(ガソリンスタンド=下北)
□	大きな変化は感じられないが、各方面とも人手不足は相変わらず続いている(介護福祉関係、保育関係、飲食関係等)共働き家族も増えているので、土日等大型スーパーへ家族連れで(買い出しのような)の買い物客は多いが、その分平日の中小のスーパーは閑散としている。(経営コンサルタント=津軽)
□	一部の団塊世代で高級志向による旅行や買物は目につくものの、平均して節約志向が高まっているように感じる。(建設=県南)
△	2月末にアウガ商業施設(1~4F)が閉店し、周辺の個店もマイナスイメージを引きずっており、消費マインドが落ち込んでいるようです。(商店街=東青)
△	外客が大幅増加、ただし最初の着地なので、お土産の買上げが少ない。国内客は大雪のため、動きが悪かった。(観光名所等=津軽)
△	店舗の売上状況はやや良くなっているが、主に天候要因(気温上昇による春物衣料の好調)に帰依している。※3月の低温での売上減少が4月の売上増 特にアパレル取引先の経済状況が良くなる兆しは見られない。足元売上減少とあらゆる面でのコスト増(原材料・人件費等)が利益を圧迫している。(衣料専門店=県南)

### ○3ヶ月後の景気の先行き判断理由

◎	6月に弘前はるか夢球場にてプロ野球1軍の試合もあります。弘前公園の曳家に続き石垣の解体等も観光資源にしようという試みも功を奏すと思います。行政の様々な取組が、地域を活性化させる要因となっています。(設計事務所=津軽)
○	予約状況は微増ではあるが良くなっている。(都市型ホテル=東青)
○	プレミアムフライデーや残業の改革によって、消費が増えて行くと思う。春から夏にかけての季節も影響して行くと思います。(美容院=県南)
○	各経済関連の紙面報告では少しではあるが景気・経済は上向き傾向にあるのではとの発表が多く感じられ、そうなってほしい。(広告・デザイン=津軽)
○	人出不足感がますます強く感じられる。20年ぶりのことだ。企業の中には内部留保が多くあり、この内部留保が人件費に向かうのではないか。この給与アップの効果が景気回復を下支えするのではないか。(経営コンサルタント=県南)
□	春物の動きは順調に推移しているが全体の売上とし上向き傾向がみられない(百貨店=東青)
□	周辺で商業及び文化施設の建設が進んではいるものの、完成までは我慢の期間が続くようです。(商店街=東青)
□	物価の値上り、諸外国の先行き不明、天候の変動が激しい。外客のカバーを期待したい。(観光名所等=津軽)
□	人口の減少・流出により、下方圧力はあるが、目先、大きく振れることはないと思われる。(ガソリンスタンド=県南)
□	これから観光シーズンになるが、ツアーや団体の予約も鈍く個人の観光客も大きく伸びる要素が見当たらない。(都市型ホテル=下北)
□	(六魂祭のような)特段大きなイベントが今年は無いし、消費の底上げが期待できる要素が見つからない。(広告・デザイン=東青)
□	行楽シーズンになるので、観光客に関連する業種から景気が上向いていって欲しい。(経営コンサルタント=津軽)
□	良くなると感じられる要素が見つからない。企業は採用難で、業績は上がっていないのに賃金を上げたりして人材確保に奔走している。(建設=県南)
△	精肉・加工肉では、ブラジル産の輸入問題から国内産の商品に移行。チラジ等での打ち出しができず、売価は高くなっています。菓子は、北海道産じゃがいもの不足からポテトチップスに影響が出はじめています。お客様に提供する商品手配に問題出るとおそれます。(スーパー=東青)
△	人手不足の深刻化(ガソリンスタンド=津軽)
△	採用難、人手不足で生産サービスが追いつかないので。(旅行代理店=県南)

記号の意味：◎良くなっている、○やや良くなっている、□変わらない、△やや悪くなっている、×悪くなっている

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」